

# 野菜の展望

今月は、越冬作型から春作型への切り替わりの時期となります。寒波や降雪により品薄傾向であった葉菜・洋菜類も、気温の上昇とともに回復傾向と見られます。しかし、品目によっては不安定な出荷が懸念されるものもあり、今後の産地情報には注視が必要となります。

根菜類の大根は、徳島・千葉産主体に九州各地より春大根が入荷します。千葉産はトンネル作が主力となります。人参は、愛知・鹿児島産主体の入荷です。愛知産は早期の切り上がりが予想され、替わって徳島産の新人参の入荷となります。蓮根は、石川産主体に愛知・茨城産の入荷で、太物中心に順調な見通しです。季節商材の筍は、徳島・鹿児島産中心に中旬より福岡・和歌山産が加わりませんが今年の入荷は前年をかなり下回ると予想されます。

果菜類の胡瓜は、高知産主体に群馬・愛知産の出回りで、前年に比べて順調入荷が見込まれます。下旬からは石川産春物の入荷も見込まれます。南瓜は、ニュージーランド産主体に沖縄産の入荷です。沖縄産は天候不順から出荷減が見込まれ品薄傾向となります。茄子類では、中茄子が高知産主体に愛知産、長茄子は熊本産の入荷です。トマト・ミニトマトは、愛知産主体に岐阜・九州産の出回りで、下旬以降には入荷増が見込まれ、拡販を期待したい商材です。ピーマンは、高知・鹿児島産に加え茨城産の入荷です。豆類は、インゲン・砂糖エンドウ・スナップエンドウ・そら豆等の増量が期待され、いろいろな組み合わせでの販売が可能です。

葉茎菜類の白菜は、秋冬作の愛知・茨城・兵庫産が終盤となり、九州各地の春白菜主体に兵庫産の冷蔵白菜に切り替わり、入荷量は前年並を見込んでいます。キャベツは、愛知産主体に兵庫・九州(宮崎・鹿児島)産の順調な入荷が見込まれます。葱は、結束物が石川・静岡・愛知・九州各地、5kgバラについては埼玉・群馬産主力の入荷で、下旬には春葱も入荷予定です。石川産ハウス物は中旬頃で終了予定となります。ほうれん草は、群馬・岐阜・愛知・徳島・福岡産の順調な入荷を見込んでいます。落は、愛知・大阪産の入荷で春落への切り替わり、日々増量となります。レタスは、兵庫あわじ島産主体に茨城・長崎・鹿児島産の入荷を予定していますが、特に九州産の作況は悪い状態が続きます。ブロッコリーは、愛知・大阪主体に九州産も加わり、中旬迄は潤沢な入荷が見込まれるも、下旬には品薄傾向が予想されます。アスパラは、山形・長崎・佐賀産に加え中旬より長野産の入荷も始まります。輸入品はメキシコ産の入荷で気温低下から入荷減を予想しています。菜の花は、徳島・高知・愛知産の出荷で、拡販期待の一品です。

菌茸類の生椎茸は、石川産菌床物主力となりますが、原木露地物も気温上昇とともに順調な出回りを見込んでおり、なめこ・えのき・しめじ・まいたけ等も順調な出回りを予想しています。

土物類の馬鈴薯は、北海道・鹿児島産の入荷で、北海道産の残量が極めて少なく品薄傾向が予想されます。下旬には長崎産が加わります。玉葱は、北海道産に加え静岡・長崎・愛知産の新玉葱が出回ります。馬鈴薯同様に北海道産の貯蔵量が少ないため、先月に引き続き高値で推移すると思われます。牛蒡は、青森産主力の入荷で貯蔵の残量が少なく高値が予想されます。生姜は、高知産主体で順調な入荷となります。

3月は新年度に向け各種イベントに併せ多彩な販売企画立案の上、販売拡大にご協力をお願い致します。

《野菜第一部 田中 昭市》

# 果実の展望

今月の果実は、中晩柑を中心とした柑橘類・莓・りんごに加え、量は少ないものの施設物のメロン・西瓜・枇杷等が出回ってきます。

みかんは、いよいよ終盤に入り、徳島・静岡産の入荷となります。徳島産のJA勝浦については、高齢化の影響で著しく生産量が減少しており、加えて裏年でもあるため、昨年に比べて50%以下の入荷が予想されます。静岡産のJA三ヶ日については、上旬より5kg 詰めの販売となりますが、貯蔵量が少なく、L・2L中心に3月中旬頃までの入荷となります。

中晩柑の主力品目である伊予柑は、愛媛産が前年の60～70%の入荷量となります。中心階級は2Lとなっており、上旬より弥生紅の販売も始まります。

八朔は、和歌山産主力に徳島・広島からの入荷です。L中心の中玉傾向での入荷が予想されます。和歌山産の紅八朔については、上旬からの販売開始予定です。

その他、清見・サンフルーツ・甘夏・アンコール・はるみ・せとか・はまさき・文旦等多種類の柑橘が入荷します。

いちごは、2番果から3番果へと移行時期を迎えますが、主力産地の愛知・九州産についても中旬より3番果のピークとなり、順調な入荷が予想されます。

りんごは、青森産主力の販売で、サンふじ・王林・ジョナゴールド等が、40玉・36玉中心の玉流れで入荷します。

瓜類は、静岡・高知・熊本・宮崎産のアールスメロン中心に熊本産の火の国メロン、アンデス等の入荷が見込まれます。

西瓜は、熊本・沖縄・高知産の入荷予定です。いずれも作付けの減少と小玉化により、不安定な入荷が予想されます。

長崎産ハウス物枇杷の初出荷は下旬頃から始まり、加温物の作付けが大きく減少しているため入荷量は少ない見込みです。

輸入果実のバナナは、フィリピン・南米産の入荷です。フィリピン産は順調な入荷が予想されるものの袋入商品の入荷は不安定であり、且つ需要期に入るため高値推移が予想されます。台湾産は下旬頃からの入荷を予定しています。オレンジは、カリフォルニア産ネーブル種が中玉を中心に安定した入荷が見込まれていますが、切り上がりは例年より約2週間早くなります。フロリダ産グレープフルーツは、入荷減少に加え早期切り上がりが見込まれますが、3月中は出荷最盛期に入るため、40玉を中心にルビー種・ホワイト種とも順調な入荷が見込まれます。レモンは、カリフォルニア産セントラル地区の入荷となりますが、出荷調整により数量は減少します。フィリピン産パインは、需要期を迎えますが、ゴールデン種は週1回、スイーティオ種は週2回の入荷見込みで、天候不順から不安定な入荷が予想されます。その他果実では、メキシコ産ハネジューメロン、チリ産レッドグローブ、トンブソンシードレス、カリフォルニア産ミネオラ、カリフォルニア産マーコット等も順調な入荷となる見込みです。トロピカル関連では、マンゴー・アボカド・パパイヤなど豊富な品揃えで需要に応えます。以上、今月も何卒宜しく願い申し上げます。

《果実部 大西 信哉》